

コロナ感染者想定し訓練

南幌の施設 ガウン着脱など体験

【南幌】障がい者支援施設「南幌めぐみ学園」を運営する社会福祉法人南幌苑

は18日、新型コロナウイルス対策の一環で、利用者に無症状や軽度感染者がでた



医療用ガウンなどの着脱方法を学ぶ職員ら

場合を想定し、施設内で隔離、介護する自主訓練を行った。空知総合振興局社会福祉課は「そのような自主的訓練はほかの施設で聞いたことがないが、ありがたいう取り組み」と話す。

同施設の利用者は、施設内生活者がグループホームと合わせて計53人、通所者が十数人いる。道内は感染者が急増しており、医療機関だけに頼ることはできないと判断した。

同施設の計画は、地域交流ホール(体育館)を「隔離エリア」とし、これまでに購入した段ボールベッド20組、医療用のガウンやキヤップ、シューカバーなどを2千枚、手袋2万8千枚、フェースシールド60枚などの備品をフル活用。感染防

止対策をした職員が交代でエリア内に入り、利用者を紹介する。

訓練には、栗林和史理事長をはじめ職員ら17人が参加。ベッドの組み立てから、医療用ガウンなどの着脱、食事の運搬などを体験した。栗林理事長は「手袋を二重にはめて、外す際の手順を誤りやすいこと、ガウンの下の服も着替えが必要になること、食器の下げ方をどうするかーなど、具体的な課題がいくつも見つかった。急いで対応策を考えたい」と話した。

同振興局福祉課は「福祉施設向けに感染対策の実例を載せた動画もあるので、参考にしてほしい」と話す。
(土屋孝浩)